

・元気なうちに親の力を発揮して頑張してほしい。
私たち親は、理想の事業所を見つけるまで探すというスタンスに陥りがちですが、理想とする事業所が見つからないのであれば、理想に合う事業所を作り出したらいいいのではないかと、という励ましのご意見だったと受け止めました。

この他には、ほぼ毎月開催している勉強会についても次のようなご意見を頂きました。

- ・今まで知らなかった事を学べる良い機会。
- ・変わりゆく制度やサービスについてもその都度学習できる。
- ・親亡き後の不安はあるが、色々な情報を得ることで、不安を軽減できる。
- ・勉強会のことは、会員さんにもっと周知して参加して無駄ではない事を知って欲しい。

勉強会についても時々、この形でいいのだろうかという不安も持っておりましたが、肯定的なご意見をいただく事ができましたので、今後も会員の皆様のニーズも踏まえながら、内容検討をしていきたいと思えます。

今回ご参加いただきました会員の皆様からたくさんの貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。皆様のご意見を参考に、これからの育成会活動を進めてまいりたいと思えます。そして、今後も会員交流会を定期的開催し、意見交換できる機会を持ちたいと思っておりますのでご参加のほど、よろしくお願い致します。



平成27年度 全国事業所研修大会・千葉大会
に参加しました(第4分科会・行動障害へのア
プローチ)

居宅事業所 管理者 黒岩 剛史

2月20日(土)から21日(日)まで千葉市の三井ガーデンホテルにて行われました全国事業所研修大会に参加しました。

1日目は「行動障害へのアプローチ」というテーマの第4分科会に参加しました。実践報告者は(社福)

嬉泉のびろ学園園長 柳 淳一氏、(社福)北摂杉の子会萩の杜施設長 勝部 真一郎氏、(社福)八王子いちよの会施設長 吉村 博之氏、千葉県発達障害者支援センター副センター長 田熊 立氏の4名で、コーディネーターは千葉県発達障害者支援センター長 奥那嶺 泰雄氏でした。

最初は柳氏からの報告で、行動障がいの内面の理解の大切さを話されていました。故石井哲夫先生の「受容的交流理論」に基づく療育や、法人内の理念の統一、支援の統一性、この人に支えられれば頑張れるという支援者(補助自我)になることを重視しているとの事でした。印象に残った事は、言葉が出ない当事者がフラッシュバックや独語を表出された時、「昔の事を思い出してつらかったんだよね。」や「あの時、こうしなかったんだよね。」と思いを代弁して寄り添う事がされているという事です。

2番目の勝部氏の報告では、萩の杜での事例を踏まえ、行動障がい者への科学的な視点での取組みの実践が話されていました。特に、組織的な統一された支援については強調され、そのため、管理者が従業員を統率する力、従業員への教育、従業員を選ぶことに力を注がないといけない点を話されていました。また、報告の中で社内の雰囲気をよくする方法として、それぞれのキーワードの頭文字を取った「3つのR」【①リフレーミング(いいところを認め合う)、②リラックス(笑顔)、③リスペクト(尊重し合う)】の話が心に残りました。

3番目の吉村氏の報告では当初、小規模の作業所の集まりから、NPO法人格を取得し、社会福祉法人へ至る経過、行動障がいの方への支援が全く分からなかった時代から、勉強と経験で今の安定した支援が出来る施設までに至った経過が話されていました。特に物理的環境に恵まれなかった施設で苦勞されながら今の環境に改善していかれたことが印象に残りました。

4番目の田熊氏の報告では人材育成のためのセミナーを施設管理者向けに行い、セミナーを受けた後の効果を確認する為、施設を廻ったり、データを取る等、徹底した指導がされていて、セミナーを受けた方は効果や自信アップに繋がっているとの事でした。印象に残っているのは行動障がいのアプローチを0から3層までなる5階層の円柱で表し、円柱の下の層が揺らぐと他の層が崩れるという表の説明でした。(下図参照)。全体通して科学的な視点に偏った話と思いましたが、実はそうではなく、円柱の0層の職員各々の気持ちや層以外の地域の相談支援体制であったり、施設